

1 今年（H29）の傾向

総評・講評（大問毎に）

【総評】

長文読解2題、対話文読解1題、和文英訳1題の構成。設問数は13で昨年と比べ1問減ったが、大問構成は例年とほぼ同じであった。

第1問、第2問の分量(総語数)は昨年と同程度。第3問の文章量がやや増えた。第4問の英作文は例年並みの分量である。よって全体の読解量は微増である。

第1問、第2問がそれぞれ「GPS」「アニメ」と、多くの受験生にとっては馴染みのあるテーマで具体例もあったため、読解自体は容易に感じられたかもしれない。しかし、全体としての記述量は増え、また、情報の取捨選択、文脈を理解した上での訳語、構文決定としては難度が高かったため、解答の作成には困難を感じた学生が多かったと思われる。

第3問では高校生にとっての「制服」のあり方について読解し、また自分の意見を英語で論述しなければならない。昨年の第3問と同様の出題形式で、記述の際の条件は昨年ほど厳しくはなかったが、自分の意見を持ち、それを英語にする能力が求められる。

第4問の和文英訳は、例年通りの出題形式だが、昨年以上に課題文の日本語を丁寧に読解し、何を伝えねばならないかをよく吟味しなければ、高得点が望めないばかりか、場合によっては採点対象外にもなり兼ねない。

課題文自体の読解はそれほど難しくはないのだが、解答作成には熟考が必要な問題ばかりであった。文章全体の主旨の把握、対比や言い換え表現への注意を怠らずに取り組まなければならないという点では、東北大らしい問題だったと言える。

【個別分析設問 I】

GPS ナビと印刷された地図の違いについての文章読解。和訳2題、文中空所補充(客観)1題、下線部内容一致問題1題、日本語による説明記述問題1題。

問1 下線部和訳問題。‘by doing ... and doing...’の並列構造、‘—’(ダッシュ)を用いた具体例の挿入、‘whether’節(S+be 省略)の挿入等、構文の分析が正確にできるかが第一のポイント。その上で、文脈を理解した上での正確な訳語がもとめられる。具体例をひとつ挙げれば、‘the mechanics of navigation’の意味である。主語の‘the systems’は8行目の‘Satellite navigation systems’であり、また本文全体の‘navigation’の使い方から判断して‘the mechanics of navigation’は、車の運転中であれ歩行中であれ、道を探してどの道を選ぶかを定める手順や仕組みのことを指していると判断しなければならない。

問2 下線部和訳問題。主節末にある‘—in ways~’の処理が重要。下線部は、「印刷された地図を判読すると我々の場所についての感覚や道を探す技術が向上するのだが、単に向上するだけでなく、地図がないときでさえも道の探し方が上手になる」、という流れである。よって英語で提示されている情報順どおり、頭から訳していかねばその伝える内容が不明瞭になる恐れがある。

問3 文中空所補充問題。空所直後の表現、「地図が指すのと同じように」がヒント。

問4 下線部の内容と一致するものを選択肢から選ぶ問題。下線部の内容は、GPS ナビが、自分を中心にして周囲の世界が回るように表示するのを、コペルニクス以前、すなわち天動説が主流であった世界観になぞらえている。コペルニクスが何者であるかは知っていることを前提として作られた問題。

問5 ‘cognitive maps’「認知地図」の形成について、GPS 使用者と印刷された地図の使用者での違いを日本語で説明する問題。「形成」をキーワードに、必要な情報を探す。4段落目に ‘build up’ ‘develop’が、5段落目に ‘develop’ ‘form’などが見つかる。その周辺の情報を取捨選択し、両者の特徴と違いがわかるようにまとめる。

### 【個別分析設問Ⅱ】

アニメの国際的な普及の要因をテーマとした長文読解。

要約説明が2問。和訳1問。内容一致が1問。

問1 ・該当のパラグラフに限定して、要旨を的確に読みとる力が求められている。

・下線部の their は anime character。racial and ethnic characteristics は、「大きな目」に代表されるような登場人物の外見的な容姿。

・下線部直前の In fact, anime characters look like what they are.とあるところから、容姿の特徴が視聴者の人種・民族的な属性を投影して受けとめられることを、例を交えて説明できるかどうか。

問2 ・日本原作のアニメが欧米で吹き替えられる際、主人公の呼称が変えられることで、どのような影響が出るかを説明する。

・下線部の her whole cultural context の内容は、一つ前のパラグラフの説明から読み取る必要がある。

・『セーラームーン』の主人公「月野うさぎ」が内包している文化的伝承の片面しか吹き替えでは受けとめられないということが、文化的な文脈を変えているという主旨であることを的確にまとめる。

問3 下線部和訳。

・the ease with which ～, the way in which ～と[前置詞＋関係代名詞]の構文が主部を構成している。

可能なら、そこをかみ砕いて意識したい。直訳で自然な日本語にするのは、なかなか容易ではない。

・述部の訳にも工夫が要る。主語が複数の構造に見えるが、does account for と単数で受けている。

・account for を explain と解するか cause に解するかで訳語が変わる。

・some of the speed = some cause of the speed と文脈から判断できる。

問4 内容一致

・最後の段落の内容が対象になっているが、主題との関連を見失わないようにするには、文全体の論旨を考慮して判断する必要がある。

●英文が扱っている話題は高校生に親しみやすいものではあるが、思い込みを排して、筆者の問題意識に寄り添いながら慎重に読解を進めることが大切である。

●下線部訳でも要約説明でも、全体の文脈のなかで個別に焦点を絞っている箇所であるという判断で解答に臨むことも重要である。

### 【個別分析設問Ⅲ】

高校生の制服の是非についての JOHN と DIANE の会話文を読んで設問に答える問題。問 1 は発言内容と一致するものを選ぶ選択問題で、7 つの選択肢から一致するものを 3 つ選ぶ。問 2 は昨年度と同様、会話文で述べられていない理由を自分で考えなければならない。普段から賛成・反対の理由をできるだけ多く思い浮かべる練習を重ねていないと、英語力があってもアイデアが浮かばずに解答できない恐れがある。

問 1 (ア)「ジョンは女の子が貴金属を身につけるのはおかしいことだと思っていない」はジョンの 5 番目の発言を参照。男の子についてはおかしいことだと思っているが、女の子については大事なことだと認めている。(エ)「自己表現はダイアンにとって非常に大切である」はダイアンの 3 番目の発言を参照。(カ)「ジョンとダイアンはどちらも時計が大好きだ」はジョンとダイアンの 7 番目の発言を参照(I do wear a fancy watch / I have lots of bracelets and watches that I used to wear)。

問 2 制服はよいと思うか思わないかを、会話文で述べられていない理由を少なくとも一つ挙げて英文で答える自由英作文問題。昨年は理由を少なくとも二つ挙げることが要求されたが、今年度は一つに緩和された。

「制服がよい」理由として会話で言及されているのは「朝着る服を選ばなくてよい(時間の節約)」と「服装を気にしなくてよい」の 2 点。「制服はよくない」に関しては「着たいものを着る自由の侵害」と「自己表現を阻害」が述べられているので、それ以外の理由を考える。

解答例では「制服がよい」理由として、「衣服にお金をかけすぎる」「学業やクラブ活動に集中すべき」「服装が自由だと外見を競い合い友達関係が悪くなる」を挙げた。また「制服はよくない」理由として、「気に入らない服を着るのは不自然」「不衛生」「TPO に応じた服装選びができなくなる」を挙げた。

### 【個別分析設問Ⅳ】

出典は森岡正博『生命学をひらく』。著者は日本の哲学者・生命倫理学者。本文では、戦後の人々が生活の改善や病気・貧困の撲滅といった特定の目的を持って行動していたのと対比するかたちで、現代の人々、とりわけ若者は目的を見失っていることが述べられている。その上でこうした若者こそが何のために生きているのかを問う、というところに筆者は目を向けている。

設問は下線部(A)と(B)の 2 箇所の英訳。それぞれが 2 つの日本語を含む比較的長い下線部であり、一つ一つの英文の完成度もさることながら、文と文のつながりを十分に表現できるかどうか評価の対象になると考えられる。その意味で、大問 1 や 2 で示唆されていた「文脈」を踏まえた理解が和文英訳においても求められていると言えよう。

以下では下線部(A)(B)を英訳する上での注意点を順番に解説する。なお、「解答例」はあまり解釈を加えず元の日本語に即して英訳したもの、「別解」は文脈に即した解釈を加えて英訳したものである。英作

文が苦手な受験生はまず「解答例」レベルの作文を目標とし、より高レベルな解答作成にチャレンジしたい受験生は「別解」を参照するとよい。

下線部(A)のポイントは3つある。

第一に、第1文(戦後の人たち)と第2文(現在の人たち)の対比を3つの観点から明確にする必要がある。1つ目は主語の対比、2つ目は接続詞あるいは接続副詞を用いた対比の表現、3つ目は時制による対比である。特に1点目に関して、日本語では明示されていない第1文の主語(戦後の人たち)を安易に代名詞にせず、明確に意味内容を訳出することに注意したい。

第二に、第1文の「がんばれた」の訳出の仕方だ。解答例では「もっと生活をよくする……に苦勞して取り組んだ」と解釈し、struggle to doを当てた。別解では下線部(A)の直前の文との対応関係を踏まえ、「もっと生活をよくする……ために日々の仕事に専心していた」と解釈し、devote all one's energy to ... in order to...という構文を当てた。

第三に、第2文の「それを達成してしまったあとに生まれてきた」の部分の時制だ。単純に ...was born after such goals were achievedのように過去形で表現することもできるが、時間的な幅を持たせて「目標が達成されて以降現在までの人々」と解釈し、現在完了で表現することもできる(解答例)。

下線部(B)のポイントは2つある。

第一に、第1文の「彼らこそが...」を代名詞が指すものを訳出した上で強調して表現することである。「彼ら」が指しているのは直前の「そういう若者たち」であるから、such young people などとするとよい。強調の表現としてはIt is ... that ( who ) ... の強調構文を用いてもよいし(解答例)、none other than ... の構文を用いてもよい(別解)。

第二に、第1文の「生きる意味の問い」と第2文の「人間は何のために生きているのかという問い」が言い換え(同格の関係)にあるという点だ。日本文では明示されていないが、英訳するにはこの関係性をはっきりと表現することで第1文と第2文のつながりを明瞭にしたい。解答例では関係代名詞の非制限用法を用いた( ..., which means ... )。別解では第1文と第2文のあいだをつなげる文を補足した。

来年度の受験に向けてこれから英作文を勉強する受験生は以下の2つのことを念頭に置いておこう。まず、日本文の表面的な逐語訳に陥らないように、下線部以外の部分も含めて日本文の意味内容を正確に把握することである。単純に単語を日本語から英語に置き換えただけの文はしばしば不自然な英文になる。読み手が解答として書かれた英文だけを読んで筆者が言おうとしていたことを理解できるような英文を目指そう。そのためには、まず日本文の意味内容を掘り下げて理解することが必要だ。よい英語を書くためには日本語のよい読み手にならないといけない。

もう一つは、他の語句とのかかわりを意識して適切な語句を選択することだ。意味の上でも文法・語法の上でも、ひとつひとつの語句は単独で適切さが評価されるわけではない。語句どうしの指示・参照関係や構文としての組合せの適切さに応じて、その文の意味内容を表現するのに最もよい語句を選択するだけの語彙力が必要となる。日本語と英語の語句を一対一対応させるような単語の暗記に終始するのではなく、文脈のなかで意味が決定するという前提とした文章読解を基盤にした語彙力の増強に取り組もう。

2 合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

【文系】

文学部	60%
教育学部	60%
法学部	65%
経済学部	60%

【理系】

理学部	70%	歯学部	70%
工学部	70%	薬学部	70%
医学部	75%	農学部	70%
保健／看護	60%		
〃 検査	60%		
〃 放射線	60%		

3 来年受験する生徒へのアドバイス

思考能力と表現能力が求められる。

英語の単語や構文が理解できるのは当然として、そこに使われている表現や構文によって意図されている内容を、文脈からも推理し、それを読み取ったことを伝える日本語能力が必要である。文章全体の意図を理解した上で和訳や説明文を書けるようにするためには、一般的な下線部訳練習だけでなく、文章全体から同義表現や対比となる表現を探す練習も効果的だ。また、単語帳に頼った訳語の丸暗記では対応しきれない。英語が伝えようとしている中身を理解し、それを日本語ではどう表すか、という視点での単語理解が必要になる。これは大問4の英作文にとっても同じことが言える。すなわち文字通りの単語の置き換えではその内容を伝える訳にはならないため、日本語で伝えている中身を別な日本語で表現するとどうなるのか、という見方が必要になる。

また大問3で問われたように、日常的な事物(今回は「制服」、昨年度は「スマートフォン」)については自分の頭でその問題点等を考えておかねばならない。「すでに指摘された以外の理由を挙げよ」という条件が2年続いたが、これはただ考えるだけでなく、常に複数の可能性を持っていなければならないという大学からのメッセージでもあろう。

自分で判断できる思考力とそれを相手に伝える表現力を鍛えるためには、日頃から自分で考え、表現し続けることが一番である。思考の契機を与えてくれるものとして文章を多読し、読後、感想や批評、考察を日本語であれ英語であれ、言語化する習慣をつけてみよう。仲間と文章について批評しあうのもいいし、感想文を指導者に添削してもらうのもよからう。